高知県におけるIT化の現状

特定非営利活動法人 ITCこうち

筒井 一貴

kazuki@ksco.co.jp

2007年度 IT経営応援隊事業での事例から

1、支援企業の概要

平成7年に創業し、平成11年9月法人化。
創業以来、部品加工が中心の下請型企業であったが、7年前から木質ペレット製造機の製作に着手。
平成18年に製品化に成功し、製造販売を開始、下請型企業からの脱皮を図っている。

設立年月日	平成11年9月1日(法人化)	資本金	３００万円
業　種	一般機械器具製造業		
売上高	１３５百万円	従業員数	１０名
取扱製品	バイオマス事業部：木質ペレット製造機　　製造部：精密部品加工		

2、3つの問題点

受注の増加による納期管理の必要性が増大する中、以下の3つの問題点が発生していた。

① 製造加工の進捗状況が見えない。
② 部品発注の状況が見えない。
③ 製品で必要なユニット部品の構成が整理できていない。
（図面と部品構成の共有化ができていない。属人化している。）

3、3つのCSF

上記の問題点を踏まえ以下の3つのCSFを設定した。

① 製品毎のユニット/部品/標準工程（製造リードタイム）の整理を実施する。
② 全社員が容易に部品展開できる様、情報共有化を実現する。
③ 製造手配と完了報告のルールを統一し製造手配後の進捗状況を把握可能とする。

一気に細分化した細かな実績記録を取得する事を要求するのではなく可能なレベルから運用開始し、現在の製造状況が見えないと言うブラックボックス化された状況をクリアにする事。
さらに部品毎の進捗状況と部品表整理による部品構成と組み立て手順情報の共有化を実現する事により、現場に考えさせる体質を定着させる事に注力した。

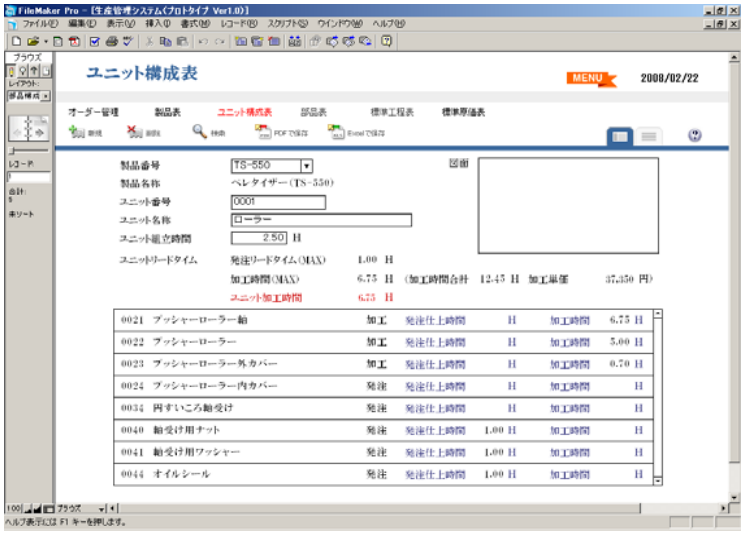
4、結果について

全7回の短期間の中であったが全製品の部品表を整理を実施。（全ての工程を「可視化」する事に繋がる）

担当者の頭の中にしかなかった製品を作成する為の構成情報を「可視化」し、生産管理システムに展開。
システムを中心とした運用ルールを確立する事により、進捗遅れ、発注モレ、コストアップ等の問題点が明らかになる。明確な数字が現場に展開される事により常に改善を行なう体質を定着させ現場を鍛えるきっかけとなることに疑いの余地はない。（標準化）

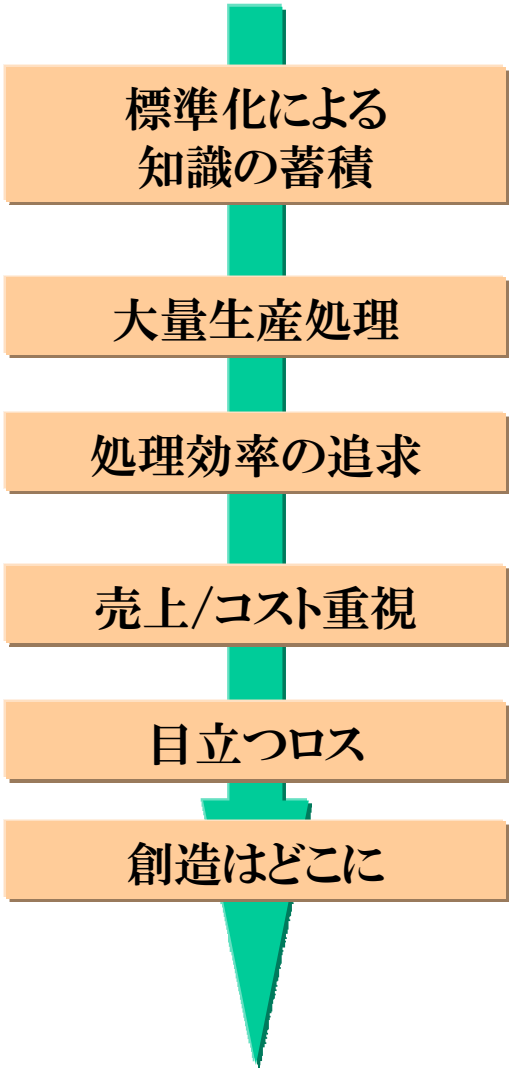
今回の企業だけでなく、県内殆んどの民間企業は、
自らの現状（現在の業務レベル）にフィットし、かつ低価格、短期導入が可能であり、将来に渡って利用し続ける事ができるIT化を強く切望している。

生産管理システム（プロトタイプ）



今後の取組み

地方からの創造（これから） チャレンジ



知識の習得・訓練

何故かを学ぶ/考える

身に付ける

創造へ繋げる（カスタマイズ）

知恵に

紙加工業
金属製造業
食品加工業（水産、青果）

　これからのITは、社会的な視点や価値観を踏まえて開発していく必要があるのではないかと考えます。

　全体的な視点を持つにはまず「モデリング」があり、成功事例を元に「パターン」を活用し、

　企業・ITCとして最適な動きをしていくには、アジャイル的なスキルと活動が必要だと考えています。

　「基本を自分の体で習得する」、そして「次を見据えて全体的な視点を持つ」

　こうした活動が体系化される事により、社会と価値を共有するIT化が可能になるのではないかと考えます。